

「中江裕司監督『真夏の夜の夢』に関する一考察」(『武蔵野学院大学大学院研究紀要』第12輯、武蔵野学院大学、平成31年3月。ISSN:1882-8515)

「プロローグ」「1 中江裕司」「2 中江裕司監督『真夏の夜の夢』」「3 日本のシェイクスピア映画として」「エピローグ」の順で構成した。シェイクスピア映画の研究は進んでいるが、それはある特定の映画だけである。日本人が製作したものでは黒澤明監督『蜘蛛巣城』(1957)がメインであり、その他のものはほとんど言及もされず、研究も進んでいない。沖縄を舞台にした『真夏の夜の夢』は沖縄文化独特なものもあり、同じ日本人であってもエキゾチックな印象さえ覚える。まさに多文化共生の時代、こうした映画の理解はさらに深められる必要があるのだ。(B5)